

新「まちげき 2014」のご提案

あなたの街でも「まちげき」に取り組みませんか

身近で舞台を楽しみたいと思っている市民の皆さんと音楽・演劇・芸能などの専門家をマッチングして公演をプロデュースする新しい「まちげき 2014」を企画いたしました。皆さまお住まいの身近な場所を劇場に変えて、一流の舞台芸術を上演いたします。

「まちげき」は、福井芸術・文化フォーラム（以下、フォーラム）創立5周年の際、お客様に身近なところで舞台を満喫していただこうと、福井市中心市街地の文化施設、お店、民間の小さなライブスペース、商店街の空き店舗などに劇場空間を作り開催した事業です。その後2回福井駅前を中心に開催しておりますが、再開発事業の進行もあり、今まで使っていた会場の確保が難しくなってきました。

「まちげき」は、元々「街は劇場」というフォーラムのキャッチフレーズや「文化は人をつくり、まちをつくるコミュニケーションの礎である」という理念をそのまま体現した事業で、街や人が元気になることが一番の目的でした。中心市街地での開催が難しいのであれば、地域の皆さんの居住する近くで開催したらどうかとの意見にまとも、今度は地域の中で「まちげき」に取り組むこととなりました。

そこで地域の皆さまに、ぜひ「まちげき」をご自分の地域で開催して、地域を元気にすることを提案いたします。普段は観られない生の舞台芸術を、公民館、事業所、お寺、

倉庫など人が気軽に集える身近な場所でやってみませんか。

人は食べて寝る以外には「遊ぶ」生き物です。近頃は遊ぶにもお金がかかります。同じお金を使うのであれば、みんなが喜び、大人も子どもも楽しめる舞台芸術を地域で主催して、隣のおんちゃんもお向かいのおばちゃんもみんなと一緒に楽しみませんか。通常なら多額の経費がかかる舞台作品をフォーラムの独自プロデュースによって取り組みやすい経費で開催することができます。お芝居に人形劇、歌に邦楽洋楽の演奏、パントマイムに大道芸など様々な一流の舞台芸術・芸能を提供いたします。

「どうやって取り組むか」「準備物は何が必要か」などチラシの作り方から本番当日の運営までフォーラムが責任をもってサポートいたします。「地域を元気にしたい」「地域の人と楽しみたい」という思いさえあれば何とかなります。町内会、壮年会、青年団、婦人会、子ども会、事業所、会社、お寺の檀家、教会はたまた個人など、取り組みの主体は誰でも結構です。地域の人と一緒に楽しむという前



写真はイメージです

提であれば「まちげき」の開催は可能です。開催のための詳細は、下記のとおりです。取り組んでみたいという方、ご連絡をお待ちしております。

（「まちげき」プロジェクト委員長 前田耕一）

開催概要

- 開催期間：2014年9月19日（金）～23日（火・祝）
- 内容は、フォーラムがプロデュースする舞台演目から選んでいただきます。
- 公演のチケット料金設定は1,000円（大人・子ども同一料金）とさせていただきます。
- 公演のチラシとチケットを作成ください。もちろんパソコン作成で充分です。
- 公演会場は、公民館ホール、幼稚園・保育園ホール、店舗、お寺、教会など50～100人前後の人が集まれて舞台が作れる場所をご準備ください。
- 主催は地域の実行委員会と福井芸術・文化フォーラムとなります。

その他、詳しくは福井芸術・文化フォーラムまでお問い合わせください。



REPORT 総括! 「それはかつてあった」

2013年、福井芸術・文化フォーラムでは初めてとなる本格的な舞台作品づくりに取り組みました。福井市出身（京都市在住）の鋭い演出家・相模友士郎氏と福井に暮らす17名の市民が、約半年間、200時間に及ぶ稽古期間をかけての作品創作。フォーラムが目指したのは、単なる市民参加の発表会の域を超えた一般の観客の鑑賞に堪える公演制作、そして、今回の創作をきっかけに、福井市文化会館を多くの市民やさまざまなアーティストが集い、交わり、表現を育むプラットフォームとしていくことでした。その成果や今後の展望などを総括します。



2013年5月より参加者募集スタート。10名程度の募集のところ、3倍の応募がありました。



7月、ワークショップ初日。30名の参加者と演出家・相模友士郎氏。彼の目指す「演劇」についての話を聴いたり、海外の舞台作品を映像で鑑賞。



ゆっくり歩く。何かの役を演じるのではなく、その人自身として舞台上に「立つ」ための稽古。参加者一人ひとりが自分の身体について、注意深く耳を傾けます。



相模氏からの課題のひとつ。「私は○○です」の文章を100個書き出す。私を形作るもの、家族・学歴・性格・好きなものなど。



広い文化会館の舞台と客席をめいっぱい使って、ゆっくり歩く。



朝起きてから夜寝るまでの1日の動きを、思い出しながら再現する。



ゲスト講師・多田淳之介氏（演出家・東京デスロック主宰）によるワークショップ「演劇で遊ぶ」。手拍子で会話をしたり、立つ・歩く・座るの単純な動作のみで「演劇」を創ってみる。



京都在住のダンサー・俳優の増田美佳氏が稽古見学に。ゆっくり歩く姿も段々と様になってきました。



9月、30名いた参加者は仕事の都合などで17名に。本番に向けて徐々に作品づくりが本格化。日常生活にも演出の手が加わります。出演者が見ている「風景」をカメラに収めてくる課題が出されました。



参加者同士も仲良くなり、課題や日頃の稽古のことなど、気付けばあちこちで会話が弾むようになりました。



14～22時まで、週3回のペースで稽古が続きます。昼間は来られる人だけ集まって作品に関する話し合い。話し合いから生まれたことは、夜の稽古ですぐに試します。



公演チラシ完成!稽古にも熱が入ります。



演出家・村川拓也氏と相模友士郎氏による公開スクリーニング（呉服町のFLATにて）。両氏が思う「演劇」や劇的な瞬間についての考察など。



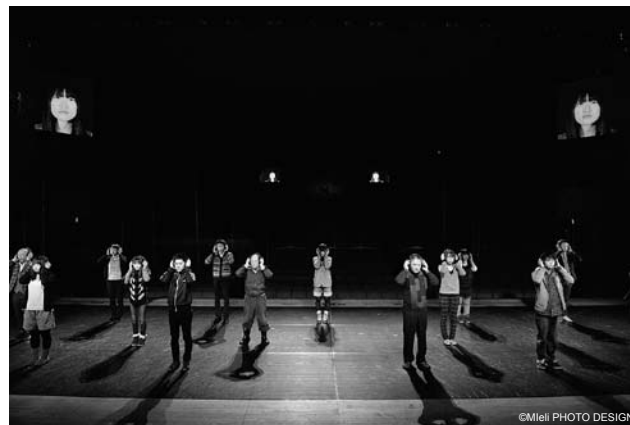
本番まで1ヶ月。アイデアが生まれては消え、試行錯誤の繰り返し。



12月、稽古はほぼ毎日。ソロのシーンや舞台進行のきっかけを担う出演者が決定し、舞台の全体像が見えてきました。



劇場入り。音響・照明・映像の最終確認。リハーサルが繰り返され、シーンの変更や調整が行われます。



本番。出演者17名の年齢の合計710年分の「記憶」と、観客の「物語」が舞台上に現れます。



今回はホール舞台上に客席を仮設し、舞台と客席を通常とは逆に使いました。

参加者の声

辻 千明 (24 歳・会社員)

今の自分を変えて前を向くきっかけにしたいと参加しました。最初のワークショップから本番までの5ヶ月間はあっという間で、稽古や本番で見てきた景色や感じた雰囲気が自分のものとは思えないくらい。変わったかどうかはわかりませんが、人と話すことにちょっとだけ強くなれたかも。度胸がついたのでしょうか。またこういう募集があったら気にしてしまいそうです。参加でなくてもお手伝いでもいいので関わりたい。それと、積極的にいろんな舞台を観てみたいと思うようになりました。

高木克昭 (26 歳・教員)

演劇や舞台にとっても興味があり、いちど本格的なワークショップや舞台づくりを体験してみたいと思っていました。自宅のある勝山から福井市まで少し遠かったですが、本当に参加して良かったです。いままでに経験したことのない種類の舞台で、演劇に対する考え方が変わりました。中学校の教員をしていて、授業の中に演劇をよく取り入れています。ふだんは子どもたちに指導や演出をする立場なのですが、今回は演出される側になれてよかったです。舞台に立つ難しさや楽しさをあらためて感じることができました。

この経験をまた子どもたちに還元できればと思っています。歌やダンスにも興味があるので、今後はミュージカルなどもやってみたいですね。

佐分利頌子 (74 歳・主婦)

2013 年初夏、福井芸術・文化フォーラムから「地域とアーティストとの共同制作舞台への参加者募集」の案内があった。実は福井に来て4年目の秋、初めて同フォーラム企画の「リーディング公演」に参加していたので、また朗読関係かな…?と気軽に参加をした。ちょうどこの三月で福井を去るので想い出作りに、との思いもあった。構成・演出の相模友士郎氏のもとに集まったのは10代~70代までの30名近くのイロイロなタイプの人々。当初(いや、最後の最後まで)歩き続ける稽古がひたすら続いた。ストーリーが無く台本もない。だからセリフもない。どんな舞台…?何を…?興味津々!相模氏が演出に対するオモイを熱く語るのを輪になって聴く。歩く。聴く。歩く。聴く…

稽古は夜7時~10時までなので時々差し入れて空腹を満たす。相模氏はこの「休憩時間のような時」に現れてくる個々人のキャラクター、隠れ才能、生まれてから今ここにいたまでの歴史を見事にキャッチし、『それはかつてあった』の舞台を作ってしまった。

舞台上に客席を作り、観客の1~2メートル前でこんなにも自然に自分自身を語り、表現することが出来るようにしてしまった『相模マジック』!そしてあの広い客席も大きな感動をもたらす舞台にしまったこと、素晴らしい思い出をありがとう!!!

お客様の声

黒田美恵

“まち”を支えるもの

年齢も職業もバラバラの、しかもほとんどが演技未経験者の17名による作品「それはかつてあった」はあまりにも等身大で、見ていて「自分」を投影せざるを得ない。出演者も観客も、それぞれの生きてきた時間と対峙する90分だったように感じました。企画も、演出も、出演も、舞台も、観客も、すべてが「福井」だからこその息遣いもあったと思います。まったくゼロの状態から劇場と地域が協力し合ってつくりあげた舞台を見るのは初めてでしたが、「劇場」という存在が、ここまで身近に思えた事はありませんでした。舞台に「出る人」にも「観る人」にも新鮮な刺激だったと思います。日々を、地域を、より豊かにするために必要なものは「文化」です。福井にはまだまだこれが足りません。今回のように、お芝居や音楽を通して何かを感じ考える機会が、もっと日常に浸透していく為に、これからは劇場が「まち」の一部として共に育ち、常に新たな視点を投げかけてくださることを期待しております。

演出家より

相模友士郎

ぼくが今回の作品制作の依頼をお受けしたときにまず考えた事は、劇場が果たす役割についてでした。劇場が都市に果たす役割というのは作品の上演だけでなく、劇場という場所に様々な人たちが集い、そこから生まれる交流を新しい文化としてどのように形成してゆけるか。劇場はその為の対話が生まれ、代謝し続ける魅力的な「場」でなければなりません。その事を考えない限り、劇場が「場」として機能してゆく事は難しく、硬化した重たい箱となってゆくでしょう。その点において僕と福井芸術・文化フォーラムとの考えは一致していました。福井に住む市民の方たちとの作品制作というのはそのような考えのもと、ソフトから生まれる「場」づくりとしてスタートしました。

17名の出演者たちの多くは舞台未経験の方たちで、世界中で行われている舞台芸術作品を参加者に紹介するところから始まり、ゆっくり歩くというボディワークや出演者との対話に多くの時間が費やされました。

企画担当者より

荒川裕子

いわゆる普通の人々が舞台上に立ち「表現」できたことはとても意義深いことだったと思います。舞台という何かしらの技能を身につけた人が自身の表現をする特別な場として見られがちですが、舞台は全ての人がいっぱい芸術と出会う場なんです。そのことを少しは証明できたのではないのでしょうか。

立つという経験から見えるいろんな景色は、観ること以上の何十倍も自分に跳ね返りがあることを舞台に立った17人は実感したと思います。今回初めて「創作」というアクションを起こし、結果多くの人々に観に来ていただいたことは紛れもないフォーラムの成果と言えると思います。

今回の創作は「地域」と「アーティスト」が出会う場(プラットフォーム)作りを目指すフォーラムの企画第一弾。創作~上演が非日常な取り組み

200時間に及ぶ作品制作時間は、参加者にとって文化会館に足を運び、日々の出来事や舞台の事を話し、アーティストと共に作品づくりをする、という事を、日常のひとつのサイクルとして認識させていったことだろうと思います。ぼく自身、その時間を共有しながら、文化会館が上演の為の箱ではなく、創作の為の「場」としての立ち現れているように思いました。そして、そのサイクルを今後、より大きなサークルとして形成してゆく事の必要性を強く感じました。

『それはかつてあった』はそのようにして制作され、上演はひとつの成功と言える成果を残したと思いますし、それは福井芸術・文化フォーラムの寛容で誠実なサポートなしでは実現しなかったと思います。ですが、今回の作品制作はあくまでも「出発点」であり、今後そのような「場」づくりを作品制作に関わる人だけでなく、観客も含めたサークルとして思索してゆく必要があると思います。福井芸術・文化フォーラムという名が示す通り、福井にフィットした芸術や文化の生まれる「場/フォーラム」づくりを期待するとともに、ぼく自身、ひとりのアーティストとして継続して関わり、考えていきたいと思っています。

ではなく、ごく当たり前の日常になるよう、今後も創作を続けていかなければなりません。そうしていくためには、外部の協力も得ながらアーティストの創作環境の整備をすることが当面の目標となるでしょう。創作の場が身近にあることが日常への近道。プラットフォームとして機能していけば、様々な表現が生まれ世間に発表されます。そしてその発表が県外に行くことも夢ではありません。また、地元を離れ世界や日本の至るところで活動しているアーティストの創作の場(里帰りの意味ではなく)になる可能性もゼロではないはずです。

こういった循環ができれば、舞台芸術を通して人々の活動がより活発になり、自ずと街の魅力ある元気な街になっていくはずです。

「舞台=特別なもの」から「舞台=人が生きていく上で欠かせないもの」と根付かせるためには、まずはアクション。すでに次回の創作が水面下で動いていますよ。

2013 年はこんな事業を実施しました



みんなで舞台に立とう!!

シーズン8 舞台発表

2013年4月14日(日) 福井市文化会館 ホール

共催:「みんなで舞台に立とう!!」を広げる会
福井県内の特別支援学級・学校に通う子どもたちによる音楽とダンスの舞台発表も8回目を迎えました。この日に向けて約4ヶ月にわたる事前ワークショップを実施。ロビーでは、特別支援学校に通う2人の生徒による絵画・造形の作品展を開催しました。



人形劇団むすび座「ピノキオ」

2013年8月23日(金) 福井市文化会館 ホール

共催: 福井県子ども NPO センター



へんしん、へんしん、へんしーん

2013年9月28日(土) 福井市文化会館 会議室

舞台芸術に触れ、表現する楽しさを味わってもらおうと、幼児～小学生を対象に舞台芸術ワークショップを開催しました。演劇・音楽・ダンス・日本舞踊の4コース。



【委託事業】福井市中学校音楽教室 福井県音楽特別委員会による体験と鑑賞

2013年11月11日(月)～13日(水) 福井音楽堂

フォーラムでは福井市からの委託を受け幼児(幼稚園・保育園)、小学生、を対象に演劇鑑賞教室を、中学生を対象に音楽教室を実施してきました。市の意向で2013年度より小学生向けが廃止となり、幼児向け・中学生向けも2014年度は委託料が前年度比10%減となるなど、子どもたちの芸術体験の機会が年々厳しくなっています。



【委託事業】福井市幼児演劇鑑賞教室 人形劇団クラテ「11びきのねことあほうどり」

2013年10月22日(火)・23日(水) 福井市文化会館 ホール



Arts in Education ～日本の音～

2013年10月～12月

福井市内の16小学校と1特別支援学校に和楽器の専門家を派遣し、体験・鑑賞の機会を提供。本物の音や楽器に触れられると各学校から期待されている事業です。

地域とアーティストとの共同制作舞台「それはかつてあった」

ワークショップ・稽古 本番 2013年12月14日(土)・15日(日) 福井市文化会館 ホール舞台上

詳細は
2～3
ページ



ふくい少年少女音楽フェスティバル 2014

2014年2月23日(日) 福井市文化会館 ホール

音楽のジャンルをこえた5団体が出演。ロビーには手づくり楽器などの体験コーナーを開設しました。



第12回芸文いこさ寄席

2014年3月16日(日)

福井市文化会館 ホール

編集後記

■我々の究極の目的は「市民を舞台芸術で元気にすること」。そのためにがんばります。(K・M)

■昨年9月の大阪での講演「広報コンサルティング」では、『芸術の売り方劇場を満員にするマーケティング』(2007年刊)中の若干の事例を紹介した。オンラインとオフライン・MKGの統合、年齢とライフサイクルによる細分化、観光旅行との連携等々。著者のジョアン・シェフ・バーンシュタイン女史は、アート(並びに文化)マネジメントやマーケティング分野の教育者、コンサルタントとして著名。(H・Y)

■「それはかつてあった」を通して学んだこと。それは、自分から何かをつかもうとすることの大切さ。文化からは生きるヒントを学ぶこともある。奥が深い。(M・U)

福井芸術・文化フォーラムの活動を 応援しています(2013年度法人賛助会員)

北陸労働金庫
財団法人 福井県予防医学協会
ホテルリバービューアケボノ
エースイン福井

発行・お問い合わせ



NPO法人

福井芸術・文化フォーラム

〒910-0019 福井市春山2-7-1 福井市文化会館内

TEL 0776-23-6905 FAX 0776-23-7905 開所時間 月～金 10:00～18:00/土日祝休

E-mail geibun@geibun.info ©公演・催し物の最新情報はwebでチェック <http://geibun.info/>

■福井芸術・文化フォーラムはどなたでも参加できる市民の団体です。

■ご意見・ご感想・ご要望など、メールまたはFAXでフォーラムまでお気軽にお寄せください。



2014年3月15日発行(年4回発行) 通巻41号